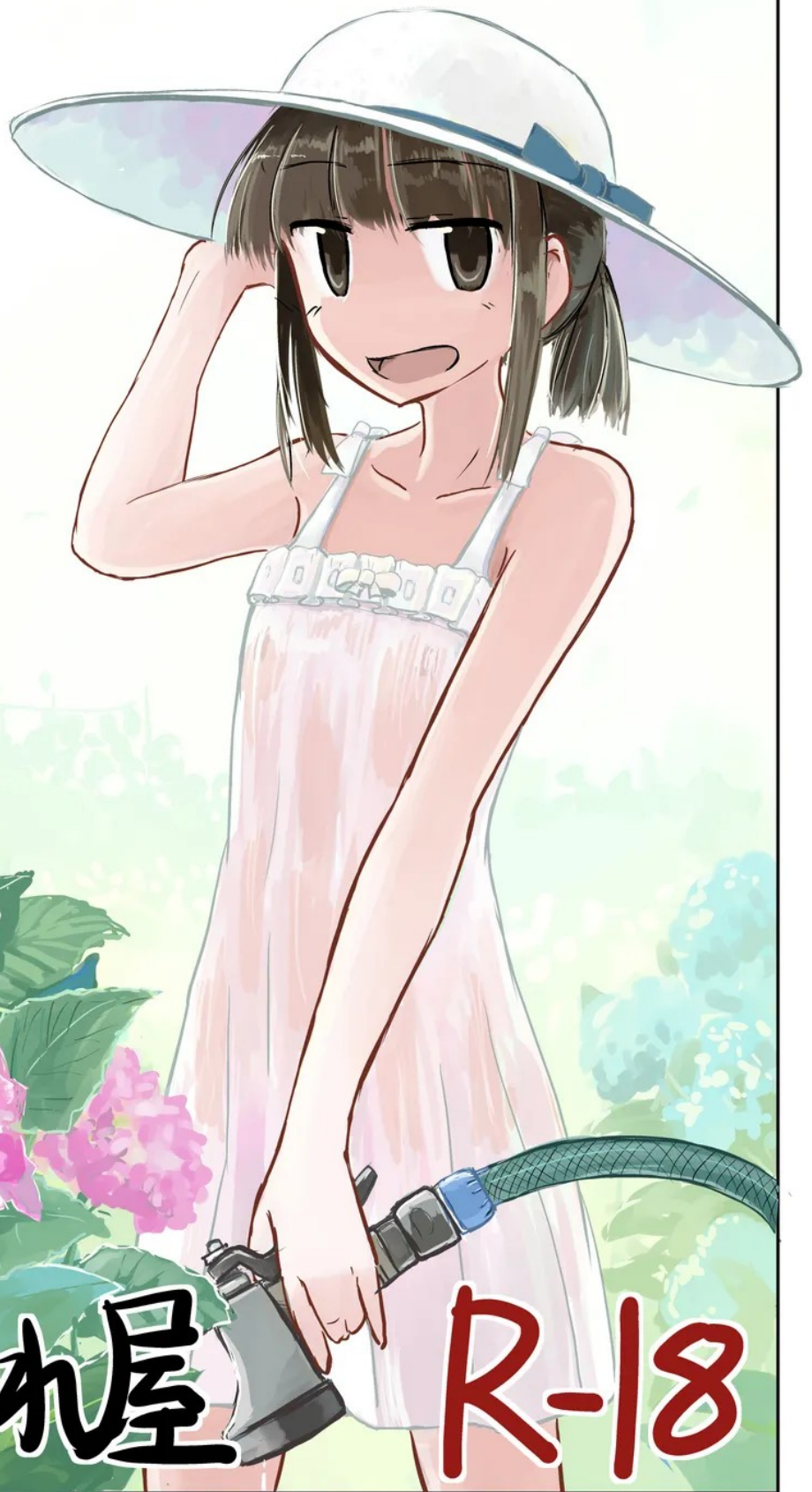


# 少女と夏の目



3rd 3rd 屋

R-18

# 少女と夏の日

## 目次

- ・朝 2～30
- ・昼 31～57
- ・夜 58～94

※本作品はフィクションです。  
露出行為を奨励するものではありません。  
真似しないようにしましょう。

朝





朝かあ…

ん



はー

夜中は暑くて寝苦しかったなあ



7時か…

そーいや今日は誰も居ないんだっけ

明日までお留守番かあ



はー  
良い風…



今日も暑く  
なるのかなあ



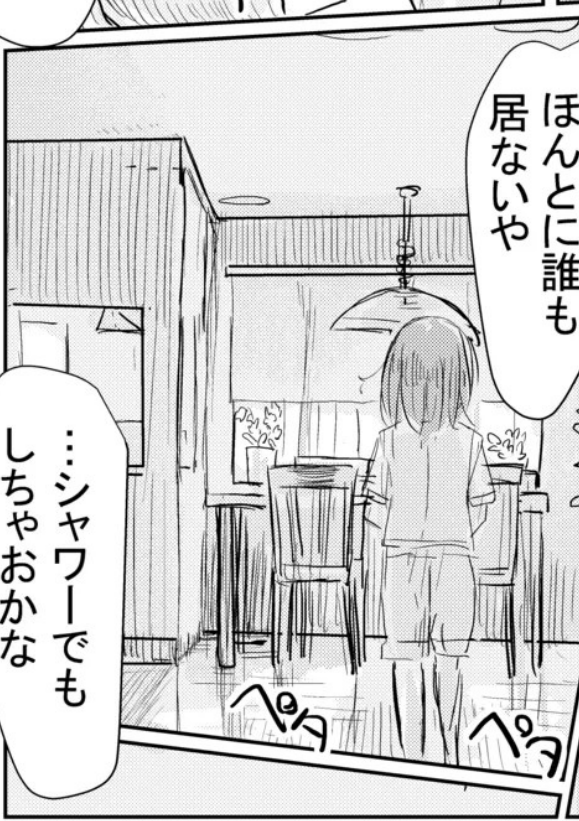
下行…

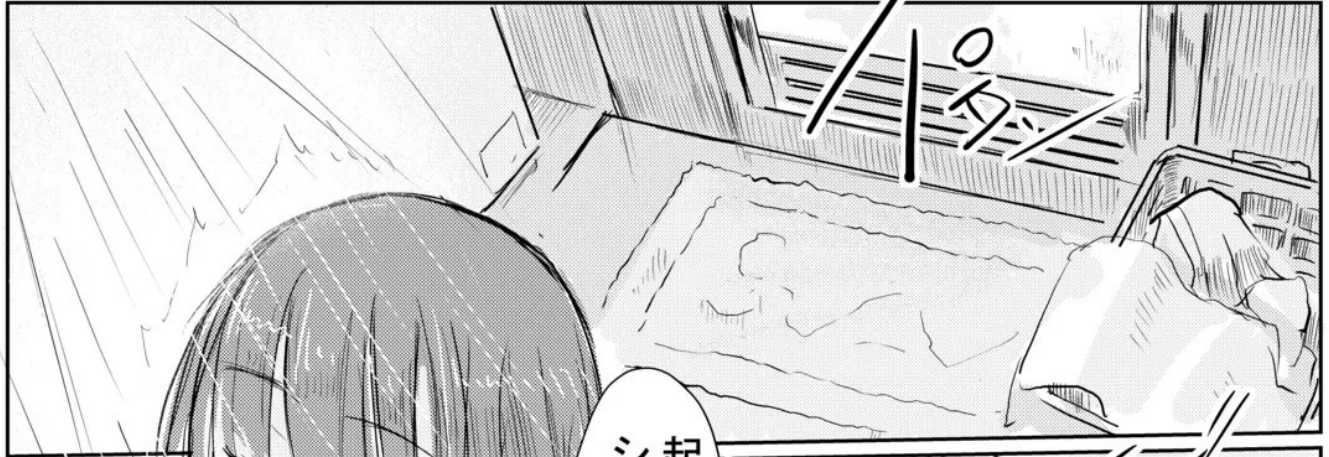


おはよー

ほんとに誰も  
居ないや

…シャワーでも  
しちやおこな





起きがけに  
シャワーとか

なんだか  
大人気分



キャッ



冷たっ

ふう  
さっぱり



キュッ

さて  
シャワーの後は



444...

ん?

ノ  
ル  
ル  
ル  
ル  
ル



ポオオオオ...

もしもし? あおはよ  
うん さっき起きた

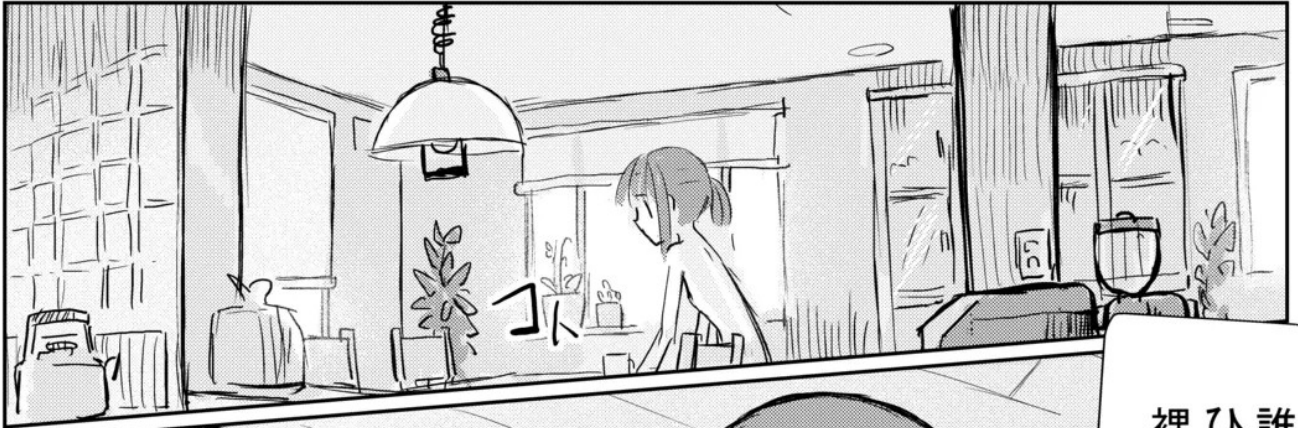


わかったー  
後で見とくね

子供じゃないんだし  
大丈夫だってー  
はい

ノ  
ッ



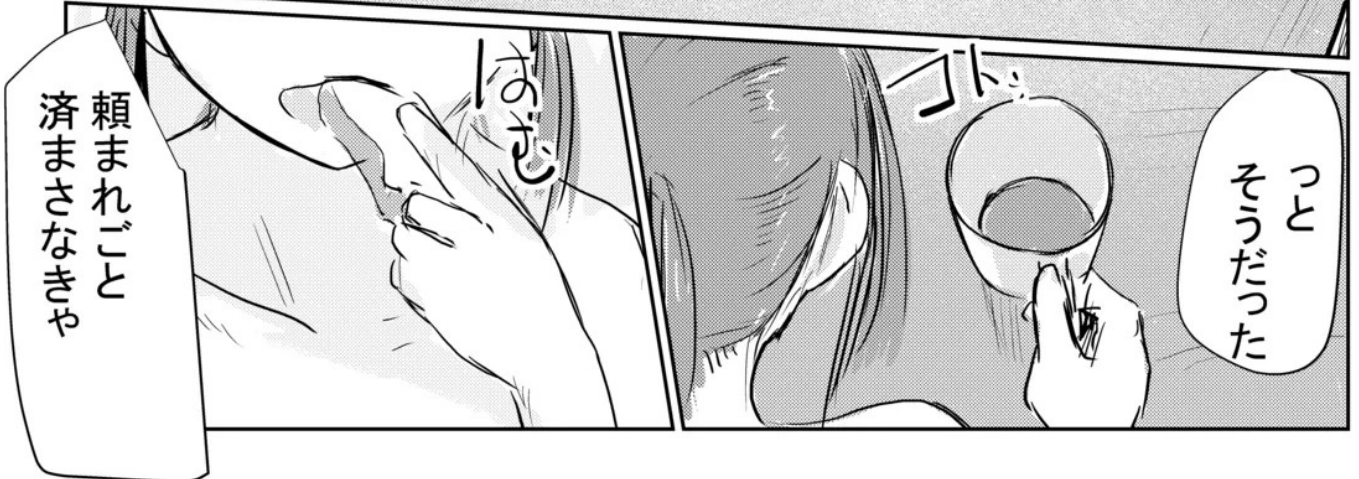


誰も居ない  
ひんやりとしたリビングで  
裸のまま朝ごはん



ふふ…

ゆったりと  
気兼ねせず  
素敵なひと時…



っと  
そうだった

ほざ

頼まれごと  
済まさないや

あ…

ん…  
家の裏だし  
このままで良いか

裏口から出たら  
誰にも会わないし

すぐに用事は  
済むんだから…

玄関の鍵も  
オツケー…

誰も居ないのは  
解ってるけど…

裸だとなんだか  
ドキドキするね

ドアあけたら  
誰か居たりして…

ギシ

ペタ

ペタ

ドキ

ドキ

ギ

カチヤ

左右を  
確認して…と

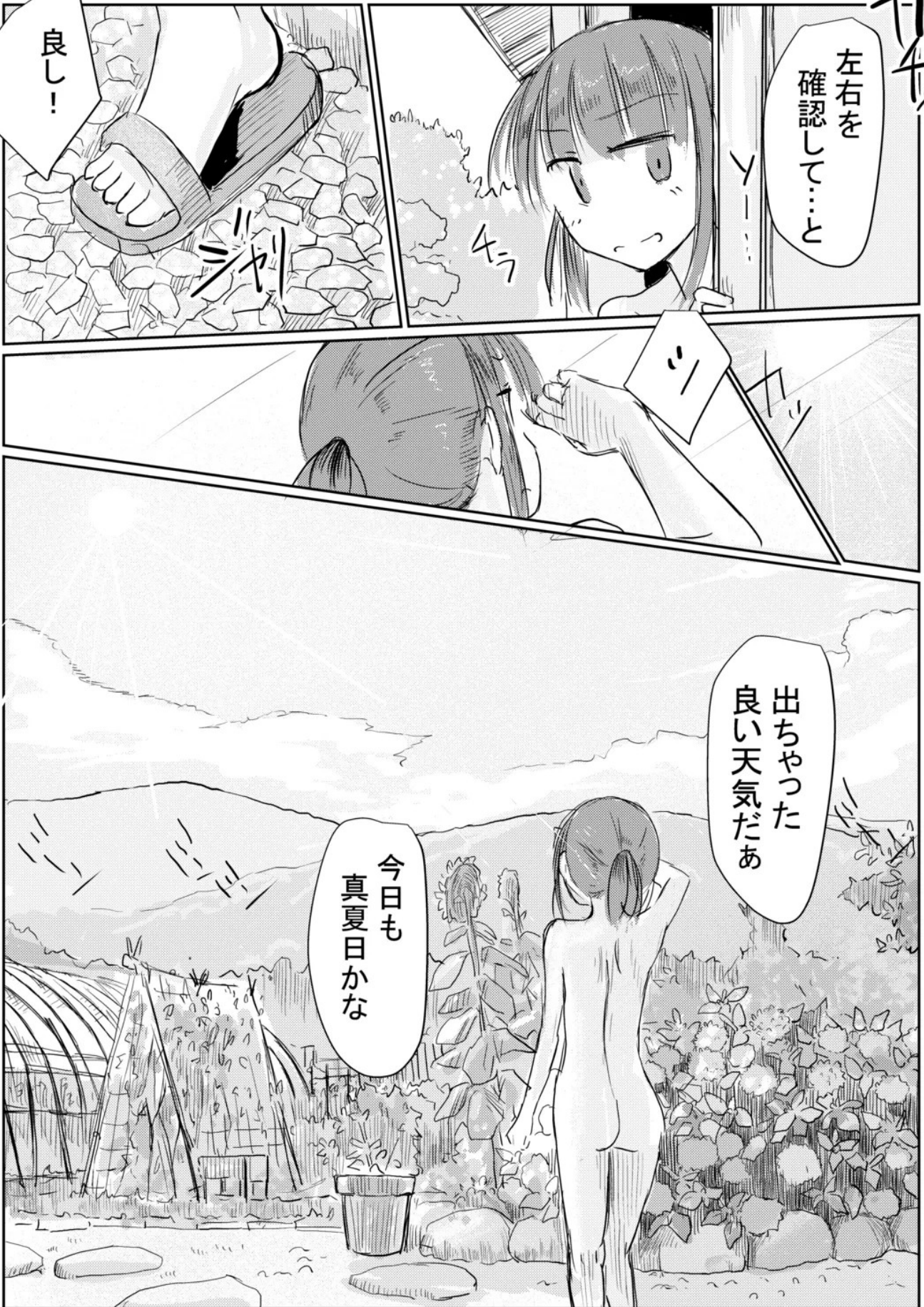
よし！

カチヤ

カチヤ

出ちゃった  
良い天気だあ

今日も  
真夏日かな



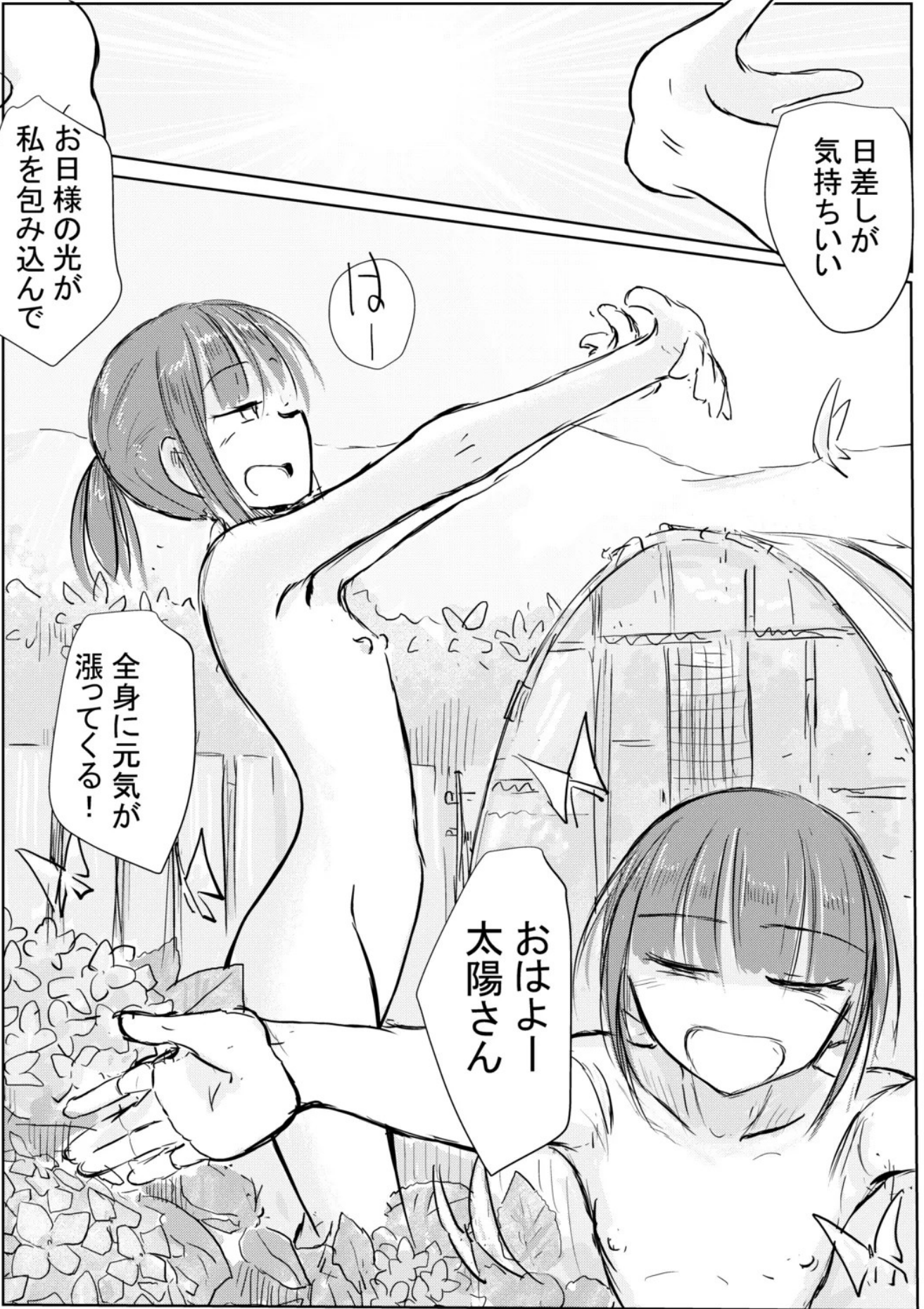
日差しが  
気持ちいい

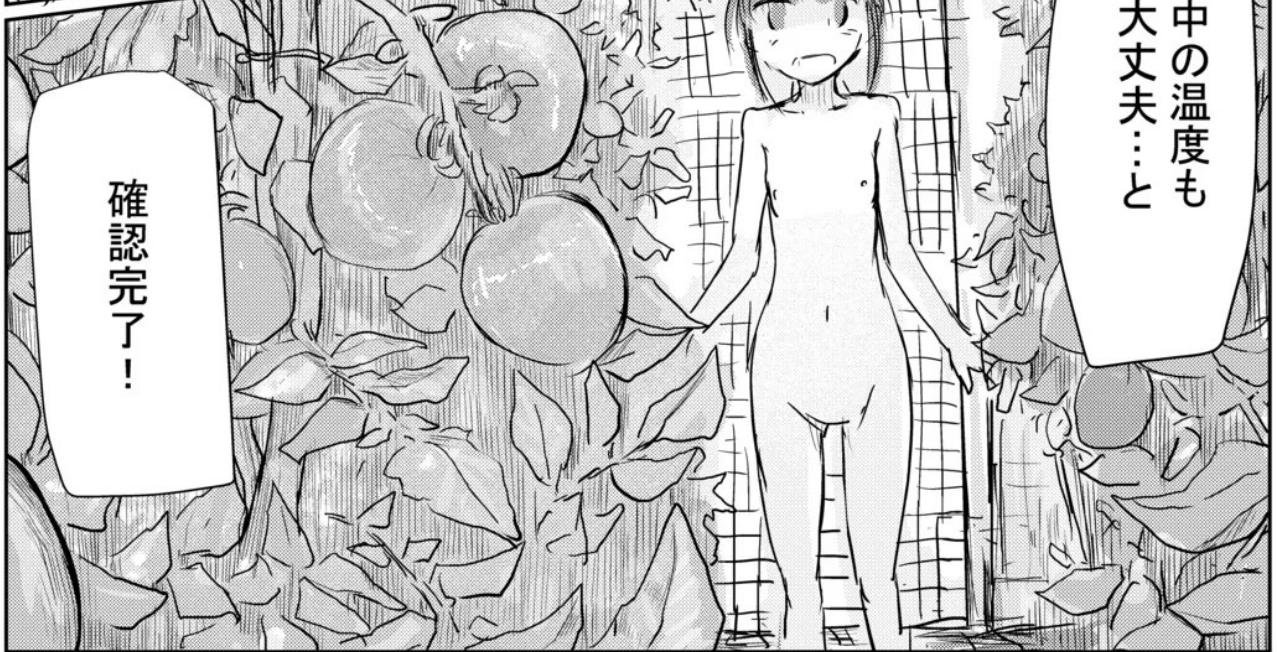
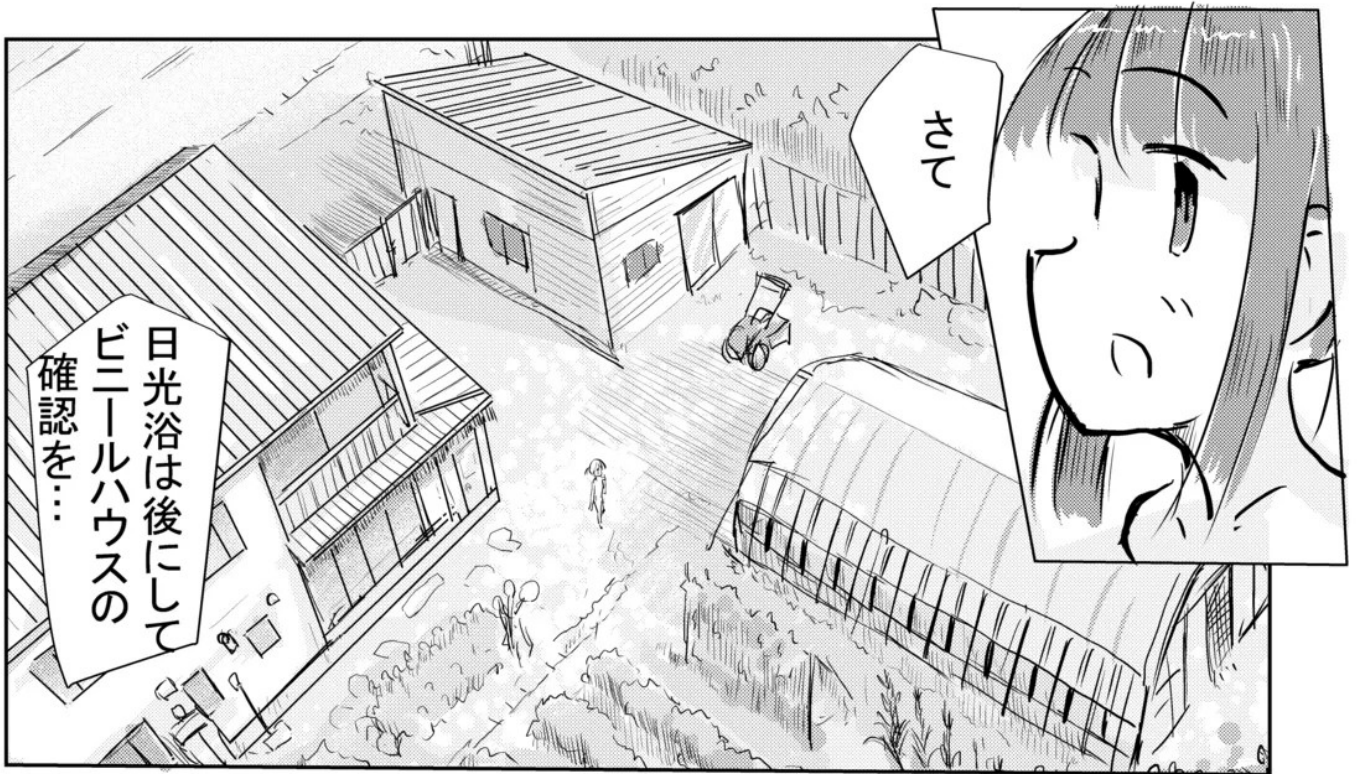
お日様の光が  
私を包み込んで

はー

全身に元気が  
漲ってくる！

おはよー  
太陽さん





あとは夕方に  
水をあげれば…

トマトさん達も  
おはよー

わあ 赤くなった  
トマトが沢山だ

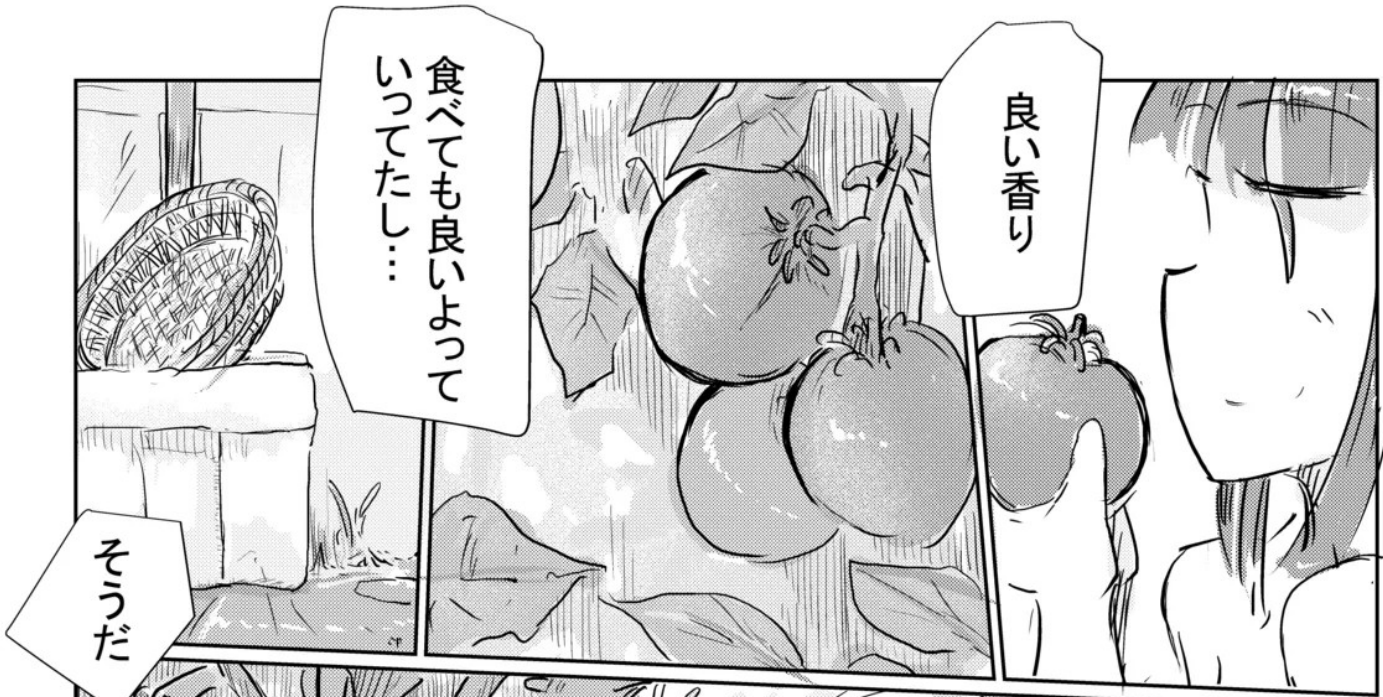
あ！これなんて  
美味しそう…

って

とれちゃった

真っ赤な  
トマトさん





そうだ

良い香り

食べても良いよって  
いったたし...



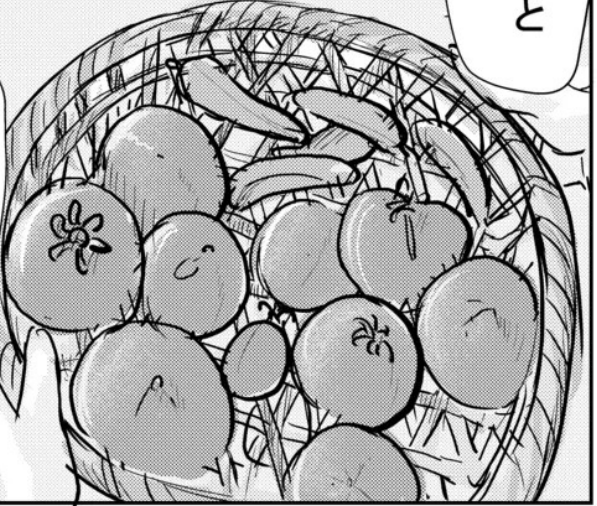
何個か  
収穫してこ

あ 獅子唐も  
食べごろだ

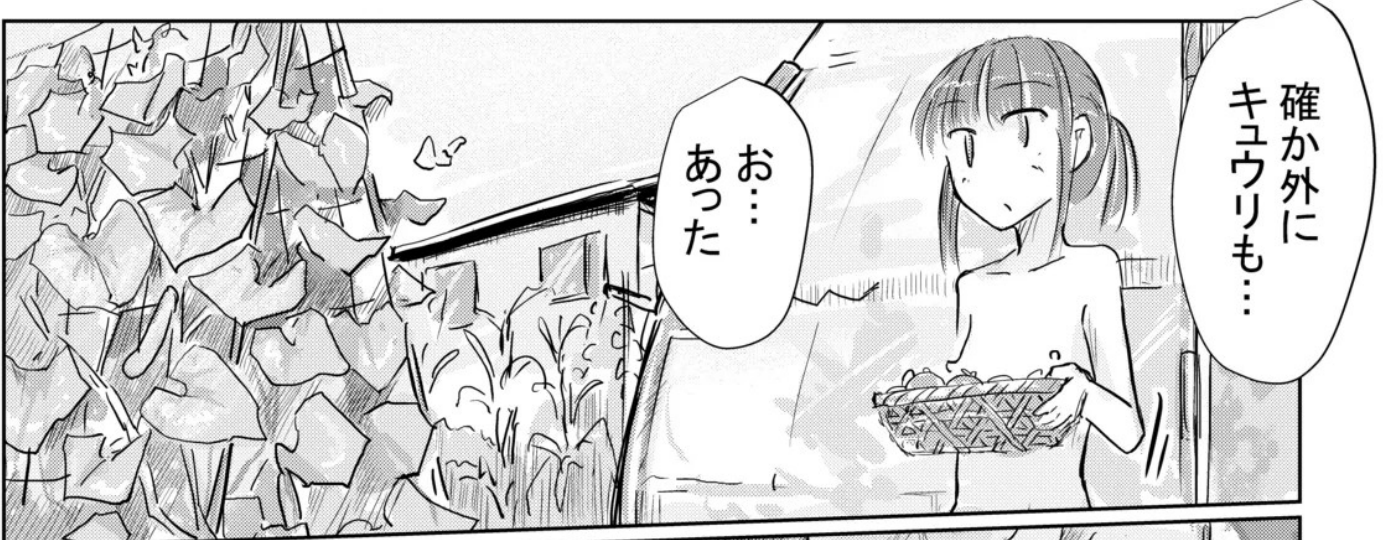


ふふっ  
大漁だ!

こんな  
もんかな



...と





何の音？

家の裏に人？  
泥棒さん!?



あ…なんだ  
ガス屋の  
お兄さんかあ

よかったあ  
…って!

もしかして  
結構ヤバかった?

タイミングずれたら  
鉢合わせだったよね

ドッ



もし見つかったら  
どうなってたんだか…



怒られるかな？  
えっちな流れとかに  
なっちゃったり？

ん？

転がって…  
何だろコレ

というか  
大きい…



キュウリだよね  
捨てたのかな？

捨ててあるんだし  
好きにしていよいよね…

少し遊んじゃお  
有効活用だ！

ガス屋さんも  
想像してないよね

真面目に働いてる姿を  
全裸の私が物陰から  
眺めてるだなんて…

なんだか悪い事  
してるみたいで

楽しいや

男の人のって  
これ位あるのかな？

こんなの  
入るのかな...

あ...ボンベ交換  
終わったんだ

行っちゃった

バレずに  
よかったけど

なんか  
残念な気分

はい

あれ...私  
何考えてるんだろ

助かった  
はずなのに

なんだか  
ムラムラする

ズ

部屋に戻って  
オナニーしようかな

ここで  
しちやうか

お外で  
全裸で

ドキドキ  
オナニーだ

オナニー

ポタッ

ん

ゴッ

お野菜まだ  
食べてなかったし

そうだ

ふー

トキ

ニジで  
食べちゃうか!

くはっ

下のお口から  
いただきまーす!

くはっ

お日様を浴びて  
元気に育ったキュウリが  
私のナカに…

入って…





うそ!? まって!  
帰ってなかったの!?



こんな事してたら  
見つかったら



3...

で...  
でも!

止めたくない!

444

見つかったら  
ヤバイのに!

2...

ト...

3...

2...







はい  
はい

だめッ  
我慢無理

あ

あ

あ  
あ  
あ

ア  
ア  
ア  
ア  
ア  
ア

ア  
ア  
ア

毎度さんですー  
あーはい了解  
今から行きます

お…  
終わった

挿れられ  
ちやう…

おちんちん…

おまんこ

助かっちゃった？  
どうして!?

あ…あれ？  
来ないな



…もう  
大丈夫かな

ザッ

ほんと  
ヤバかったなあ…

うん  
大丈夫そう…

ガザ

ガザ

ペタ

さーて  
中に戻ろっと

ニャー

でもめっちゃ  
楽しかった！

あ！入る前に  
綺麗にしないと…

散水ホースで  
野外シャワーだ

土塗れだし  
…あちっ

あ…  
又ルくなって…

さて…次は  
何をしようかな

あッ  
冷たッ

んッ  
中に





なんとというか  
裸で居るのが  
思いのほか快適で

ごちそう  
さまでした



食後に何か  
ほしいな

はあ...  
食べたあ

朝からそのまままで  
過ごしていたのだ

アイスでも  
買ってくるかあ

誰も  
居ないしね

ジーク ジーク

ガラガラ

快適とはいえ  
流石に裸では  
外出できないんで



服は着る



暑う…

おっと  
捲れてた



中は  
裸だけどね

いつか裸でお散歩  
してみたいなあ



きつと  
楽しそう

風が無くて  
焼けそうだ

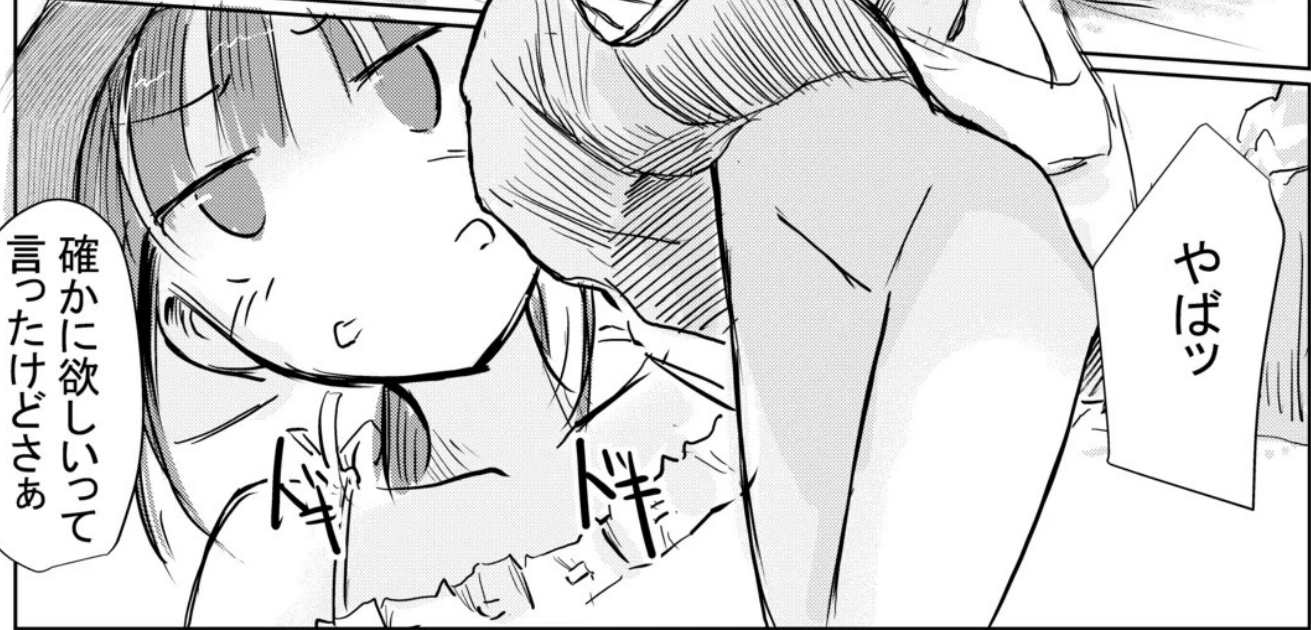
あちー

少しくらい  
風が欲しい…

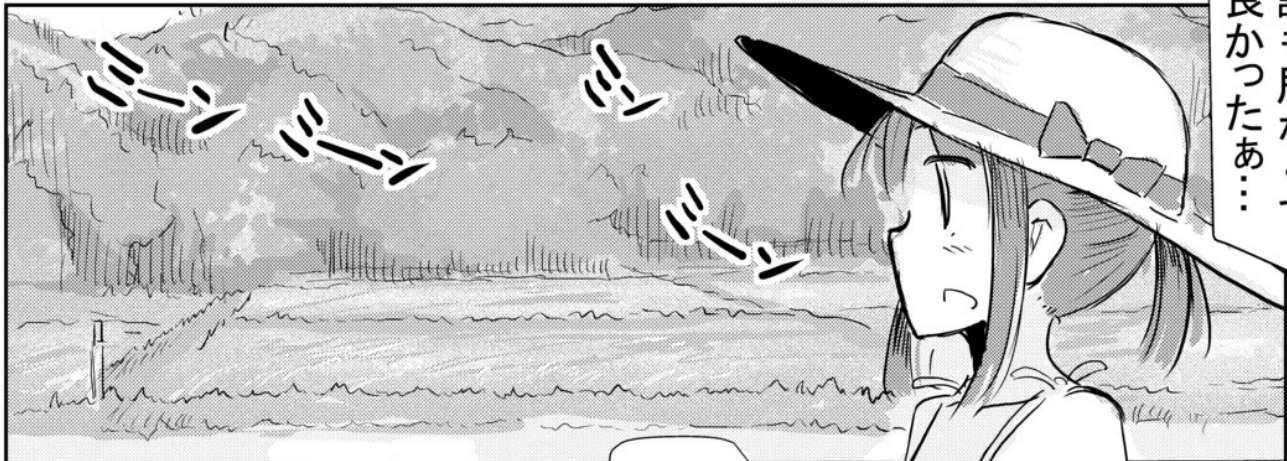


やばッ

確かに欲しいって  
言ったけどさあ



誰も居なくて  
良かったあ…



まあこんな暑い昼間に  
出歩く人は居ないか



アイスの他に  
飲み物も買うかな

こんにちはー

ガッ

スッ

こんにちはわー！  
暑いですねー！  
このアイスと…

ラムネ  
ありますか？

いらっしやい  
その冷蔵庫に  
入ってるわよ

そんなに食べたら  
お腹冷やすよ？

でも  
暑くってー

冷蔵庫冷えてて  
気持ちいいでしょ

裸で中に入って  
涼んでく？

あは

二つで  
二百円ねー

入っちゃう  
かなあー

はー  
冷たいー

値札も  
つけたげるわよ

はい  
二百円

まいど  
ありー

わー

カッ



お父さんが時々  
草刈りしてるから  
割と綺麗な感じ

階段を登りきると  
木々の間にひっそりと  
小さな社殿が鎮座していた

到着！

昔はお祭りとかも  
してたらしいんだけど  
私の記憶では常にこんな感じ

こんにちは！

ずっとこの地域を  
見守ってくれてる  
守り神様





来て正解だ

お邪魔  
しまーす

涼しいー

はー  
緑の中に佇む神社は  
涼しくて快適だった

座っちゃお

身内みたくないモノだし  
遠慮要らないよね

きつと守り神様も  
笑って見てくれてるし

んー  
美味しい

シカッ

今度から  
ここで涼もうー！

ん？

カッ

あ

水の音？  
何だろ

横に川が  
あったんだ

気持ち  
よきそう…

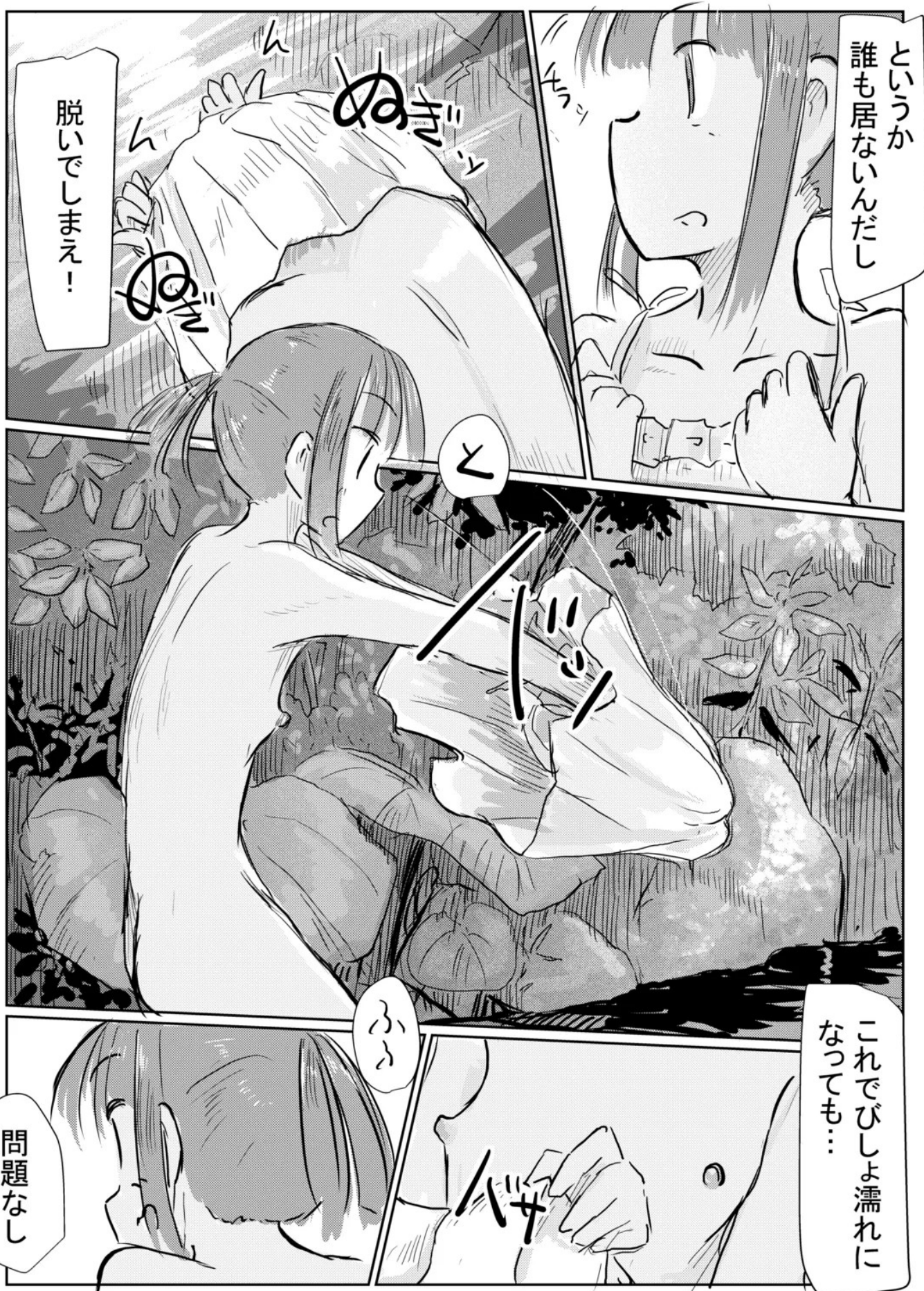
少し遊んでつても  
問題ないよね

冷たーい

誰にも迷惑  
かからないし

ワンピースの下は裸で  
少しくらい濡れたって  
へっちゃらだー





脱いでしまえ！

というか  
誰も居ないんだし

と

これでびしょ濡れに  
なっても…

ふふ

問題なし

ハッ

こんな所で  
脱いじやった

ゾウ

ああ…なんて  
言えばいいのかな

ゾウ

裏の畑に裸で  
出るのとは全然違う

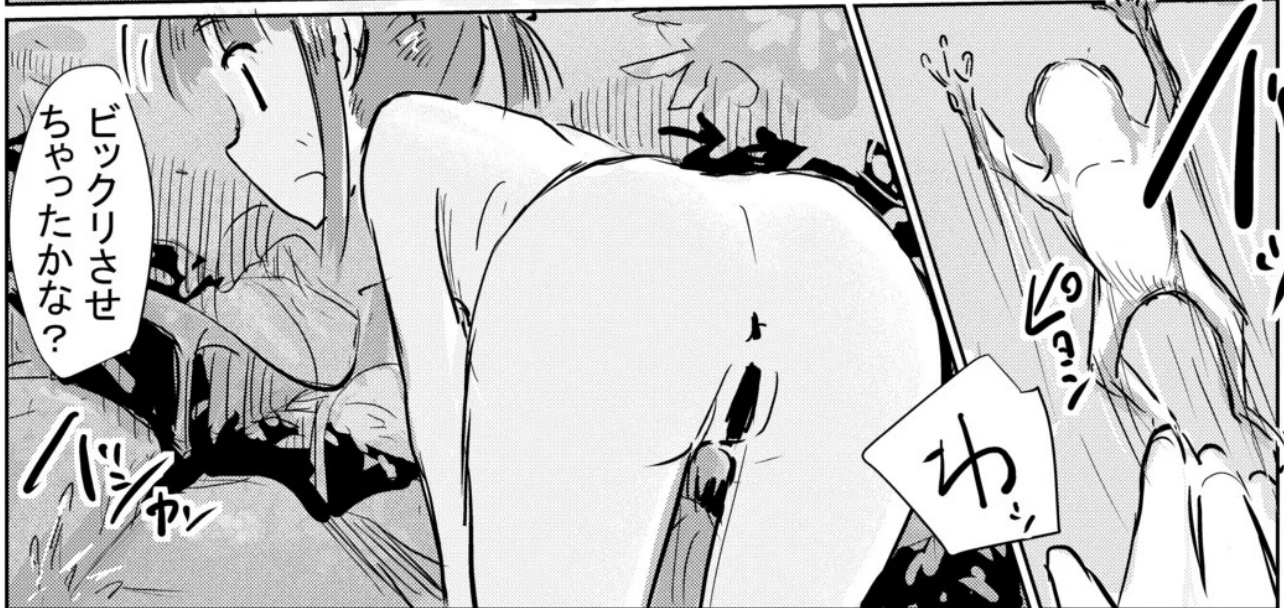
イヤッ

本当のお外で  
全裸になるのって

世界と繋がるような  
不思議な心地良さだ

イヤッ イヤッ

✖



泳ぐの  
上手いなあ

ス

ス

いいなあ…

気持ち  
よさそう

あ  
そうだ!

全裸だし濡れたって  
問題ないんだって

乾かせば  
いいんだし

私も一緒に  
水浴びだ!

ゴボボ...

でも泳げる程の  
深さは無いから…

川の中に  
しゃがみ込んで

キヤフン

冷たい

キヤフン

キヤフン

四つん這いで  
水泳気分だ！

フアアアアアア

カエルさんも  
こんなに気持ち良い事  
してたんだね

教えてくれて  
ありがとう！

ゲコ

ゲコ



はー  
楽しいなあ

ザバ

シムシム...

この先は  
険しそう...

裸で行くには  
危ないかな？

でも：  
もしかしたら面白い  
遊び場があるかも！

行ける所まで  
行ってみよ

何か居ない  
かなあ？

転がる岩々は  
苔だらけで

あたり一面  
緑の大自然！

47°

水浴びを終えた私は  
新しい発見がないかと  
周囲を見回し...

ザバ  
アアアアアアア

わあ

探検気分で  
先に進んだものの

ズグ

滑ッ

っ  
と

岩を乗り越えようと  
跨った際に足を滑らせ

う

ダッ

その岩へと下半身を  
打ち付けてしまった

ググ  
ググ

ん

ググ

ググ

ん  
ん  
ん



つっ…  
びっくりしたあ

お…お股  
割れたかな？

…よかった  
大丈夫そう

ふー

あ…ていうか  
この苔…

湿ってて  
気持ちいいかも…

幸いにも怪我は  
無かったのだけれども—

苔がクッションに  
なったみたい

気が付いた  
時には

ぬちゅ

あ

ん

ぬちゅ

ぬちゅ

ずい

A  
ぬちゅか

さゆ

さゆ

ん



あ

どういう  
訳だか

ぬちゅ

ずい

これ：  
大発見かも

ずい

ずい

あ

ずい

ぬちゅ

ずい

岩に生えた湿った苔が  
優しいブラシのように  
おまんこを愛撫し

ハァァァァァ

私は腰を振り  
自分のおまんこを  
岩に擦りつけていた

良い…

快感でにじみ出る愛液が  
更なる快感をもたらす  
という事に気付いた為だ

ん

擦り付ける度に  
増す快感…

私はそれを余さず  
貪ろうと必死に腰を振り

岩肌に生じた苔を  
おまんこで削ぐように  
擦り上げ続けているのだ

ズルン  
ズルン  
ズルン

ん

ん

あ

ん



私はいったい何を  
しているのだろうか

もしかして森や川で  
発情してるのかな

無意識に身体が  
求めているのかも

大自然の中で  
オナニーだなんて

大自然と  
繋がりたいって



生命力に満ちた  
自然と触れあい

動物としての  
本能が刺激されて

何かのスイッチが  
入ったのだろうか







皆と一つに  
なったら...

きつと蕩けるように  
気持ち良いんだろうなあ

まあ…  
妄想だけどね

ふー

はー

ああ…余韻が  
心地いい…

ふー

さてそろそろ  
お家に帰らなきゃ  
鍵あけっぱだし

お股が  
汚れすぎ！

って

ドロッ



川で洗ってから  
帰らないとね

ザグ  
ザグ

よと

はー  
楽しかったな

ほほ  
ほほ

また今度  
遊びに来ようって

もっともっと  
自然と触れ合い  
楽しまないとね

でも遊び過ぎて  
おまんこから芽が  
出てきたりして…

ふふ…

さーて帰って  
シャワーだ



夜



と

フヤッ

フヤッ  
フヤッ  
フヤッ  
フヤッ

カッ

フヤッ  
フヤッ  
フヤッ  
フヤッ

フヤッ

フヤッ

カッ

フヤッ

フヤッ

でーきた！  
今日の晩ご飯はー

ガラッ

豚の  
生姜焼き！

いただき  
まーす

あーん

いっぱい遊んだ後は  
沢山食べないと！

そーいちゃ

もぐ

もぐ

んー  
美味し！

はっ

もぐ

朝から殆ど裸で  
過ごしてたけど

もぐ

明日からはまた  
服を着ないとね

ご馳走  
さまでした！

コトッ

ふー

満腹だー  
満足満足

ほんと素敵な遊びを  
見つけてしまった

さあ洗いものして  
お茶でも飲むか

ホッ

次のお留守番が  
待ち遠しいや

キョッ

んー…  
暑いなあ…

お茶じゃなくて  
冷たいモノを…

あ

ラムネ！  
神社に忘れてきた！

キョッ

キョッ

朝にでも取りに行けばいいかな…

でも思い出したら  
飲みたくなってきた

10時か  
寝るには早いし…

キョッ  
ニャアア

んー…  
どうしょ

外はお月様で  
明るい夜空…

すぐそばだし  
取りに行こうかな

カッ  
カッ



よし！

ぺた

ぺた

夜だし裸で  
行ってみよう！

ガラガラ

念願の  
全裸散歩だ



居る訳…

キーン

キーン  
キーン  
キーン

！？



こんなド田舎の夜に  
出歩く人なんて

キーン

カラッ



危なあー  
居たじゃん

オオオオ

ビーン

トキトキ

少し間置…

カラ

おっけー…

今度は大丈夫のはず…

カラ

カラ

カラ

さっきのは  
偶々だね

家の前の小さな街灯が  
やけに明るく感じる…

あれ？あつちも  
明るく…？



今度は  
逆から!?

!!

ガサ



カカカカ



カカカカ

カカカカ

…多分さっきの  
車だね

自販機で何か買って  
戻ってきたのかな

ドキ

ドキ



はー

ドキ

ドキ

隠れる場所あって  
良かったあ…



カエルさん達の  
鳴き声を聞いていると  
私も混ざりたくなつて

気が付いたら私も一緒に  
合唱を始めていた

夜の世界で  
カエルさんごっこ

結構楽しい  
かも…



どうせなら  
もっと大胆に

カエル跳び！

クッ

クッ

ふふ…  
面白ーい

今の私は  
カエルさんだ

ここにあるのは  
完全な自由！

クッ

わ

わ

クッ

クッ



はー

本当に  
夢なのかも

私を縛るものは  
何もない

夜の世界って

素敵！

本能に身を任せ  
自由を楽しもう！

何をしても  
許されるんだ！





カエル跳びで  
来ちゃった…

ぐわ

は

は

着いた…

は

はー

頑張り  
過ぎた

これ…明日  
筋肉痛かも

ふー

よーし  
行くか!

まあ明日も  
休みだし…

アッ

夜の神社かあ…

なんだか不思議な  
感覚がする…

ここから先は  
人の世界じゃなくて

違う世界に  
繋がっているような…



夜の神社は昼間と違い  
厳かな空気を纏っていた

こ…  
こんばんは

月明りに照らされた社殿が  
それを一層際立たせていて…

忘れ物を  
取りに来ました！

私も自然と姿勢を  
正してしまう

こんな恰好で  
すいません

ただ  
咎められるような  
感じはしない



イラッ  
誰も  
居ないよね？

それどころか慣れると  
心地良さまでできて



よかったー

お…  
あった！

ずっと居たくなる  
…ような気がする



さて喉も  
乾いたし



地元の子  
だもんね私

歓迎されて  
いるのかな？

ここで  
飲みますか！

フウ  
フウ  
フウ

ふふ

運動後の  
一服だ！

カミサマにとっては  
私が服を着ていなかろうが  
あまり関係ないのかも

ポタ  
ポタ

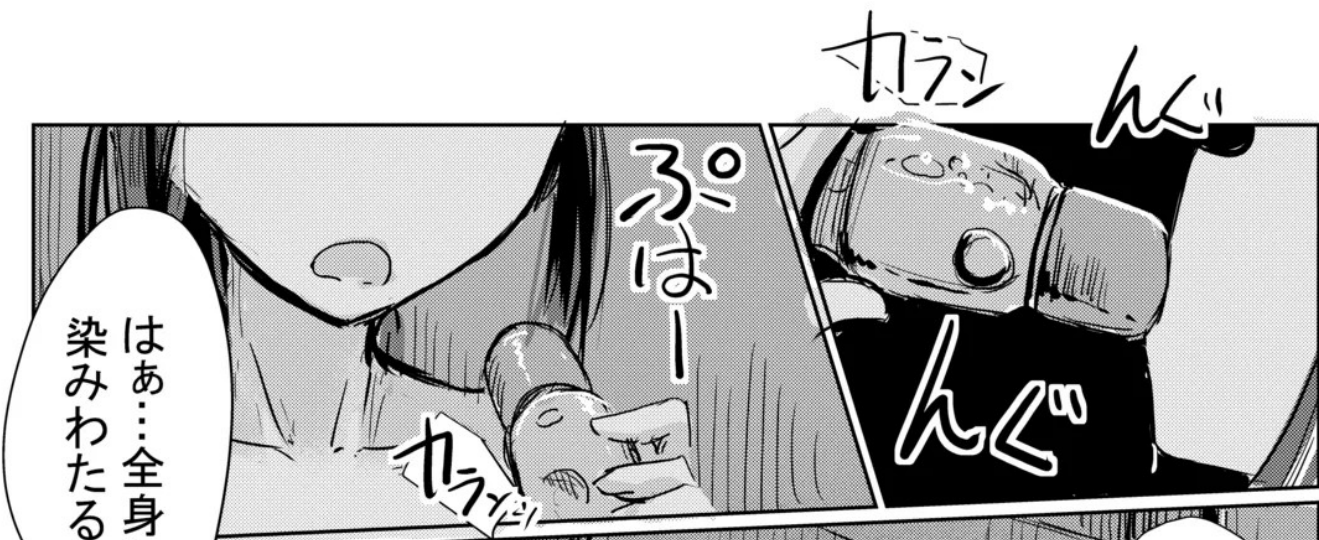
ギシ

温かく迎え入れて  
くれてるんだし

まあ…全部私の  
妄想だけだね

カラ

頂きます



はあ...全身に染みわたる

んぐ

カラッ

んぐ

ぬるいけど  
おいしー

ビー玉の転がる音が  
やけに心地良い

まるで夜の世界に  
響く鈴の音だ

カラッ

んぐ

カラッ

もう一本あれば  
良かったのにね

そうしたら  
お供えも出来たのに

うーん…

お供え…

私だけ飲んでて  
申し訳ない感じ

奉納って  
言うんだっけ？

良い事  
思いついた！

あ

確かさ

タッ

↑

カッ

カッ

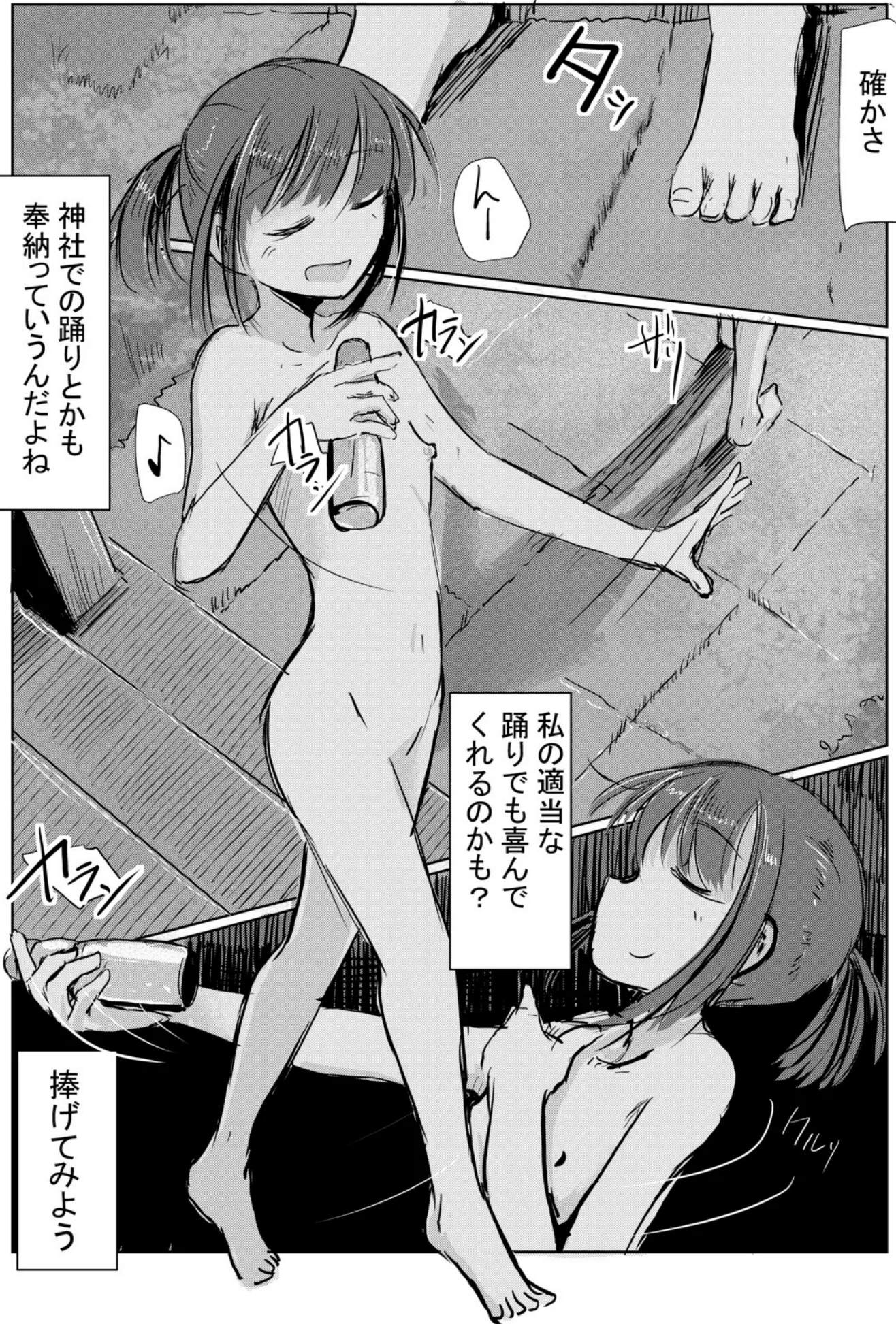
♪

神社での踊りとかも  
奉納っていうんだよね

私の適当な  
踊りでも喜んで  
くれるのかも？

カッ

捧げてみよう





カミサマへの  
捧げものは…

踊ってて楽しく  
なってきたやつた



私自身だ！  
なんてね

私の全てを  
楽しんで！

はっ

ふー

ああ…  
なんたる

ふー

ん

あ

欲しい…

踊ってた  
だけなのに…

身体が何かを  
欲しがってる

じゅわ

じゅわ

ぬちゃ

おまんこ  
ドロドロだ

ん

けろ

丁度いい  
挿れモノが…



ラムネの空瓶…  
入るかな？

はー

ゴロン

ヤーン

私は疼く下半身の  
求めに応じ

はー

ふー

くおっ

いただきます

くちゅ

おアッアッ

持っていた瓶を  
穴へと押し入れる

カラッ

ビュッ





このまま  
疼きを鎮めようかと  
思った矢先に

あゝ

あ



あ

踊りの途中  
だったんだ！

私一人で  
楽しんでた

私は大事な事を  
思い出した

ごめんね…  
あッそうだ！



向かい合って  
遊んだら

一緒に  
楽しめるかな？

そう…カミサマへの  
奉納の途中だったんだ

オナニーも  
踊りの一種かも

趣を少し変えて  
踊りを再開しよう

外側だけじゃ  
なくて…

私の奥深くも  
眺めてほしいな



ちよつと  
まってるね

これじゃあ  
見づらいから…

ちよつと

もつと  
見えるように  
股を開いて…

ついでに瓶を  
逆さにして…と





太い方を  
挿れてみよう

入るかな？

アグッ

カラッ

ふー



ん

ふふっ

はい

簡単に  
入っちゃった

アグッ

トロトロにほぐれた  
私の緩々おまんこ

今からこんなんで  
将来どうなんだか

アグッ

カラッ

ほら見て  
これ！

は

あ

あ

今なら何でも  
受け入れ出来るよ！

奥まで簡単に  
呑み込んだ  
じやった

アッブブ...

アッブブ...

ん

あ

アッブブ...

あ

あ！  
そうだ！！

あ

あ

見てるだけじゃ  
退屈だよな？

あ

あ



カミサマも  
踊ろうよ!

私と一緒に  
繋がって!

お  
お  
お

お  
お  
お

お  
お  
お  
お  
お

お  
お



私と一っに  
繋がって

綺麗な月夜で  
踊ってさ

素敵な思い出  
作ろうよ!

この瞬間を  
楽しもう!

キラキラ



え？この風…うそ!?  
ホントに来てくれた!?

絶対ッ居る!  
そこに来てる!

私と踊って  
くれるんだ!

来て!  
私の中に!

繋がって!!





せつかく来て  
くれたのに!

ダメッ  
止まんないッ  
ごめんなさい!

イッちやう!



ああ...何...これ  
こんなイキかた初めて...

は

は

ん

は

すげい  
良かった...

は

私の  
捧げもの…

カラ

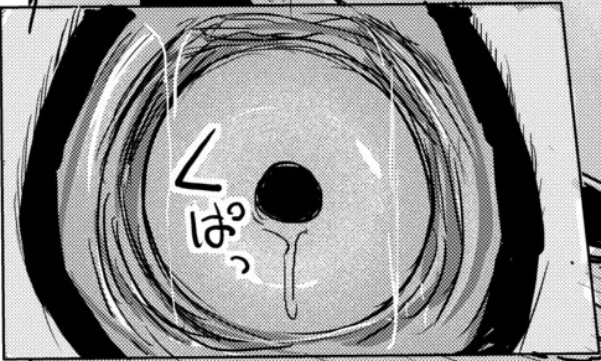
ズズズ

ん

カラ

めいあんカラ

あッ



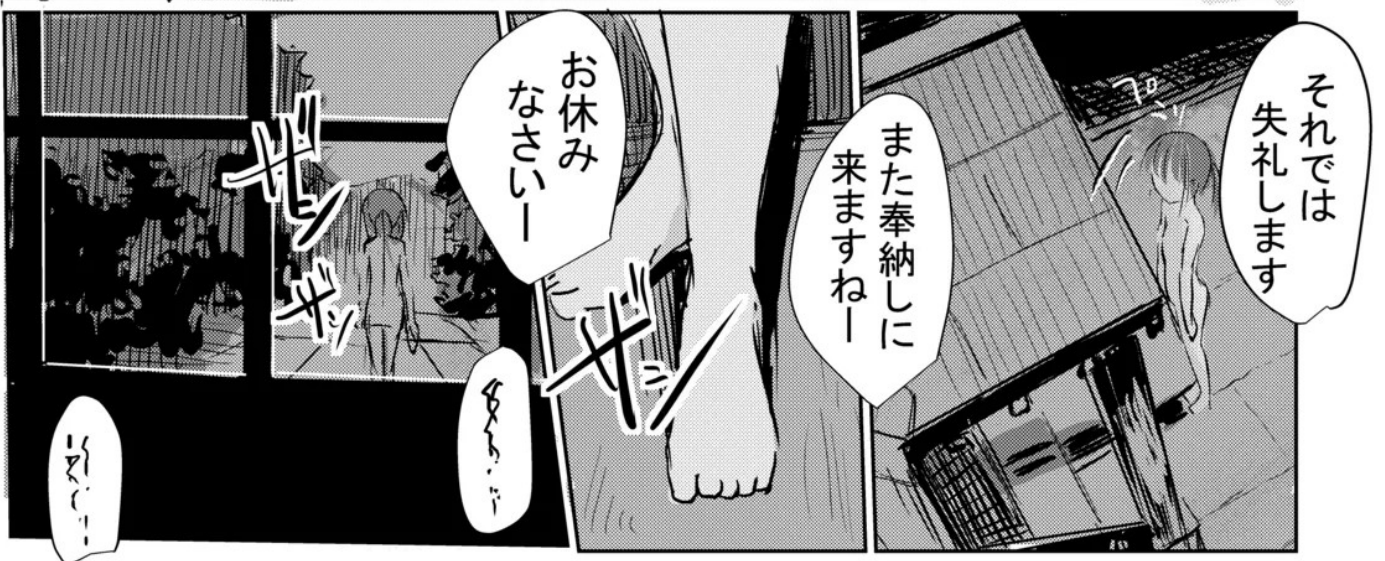
楽しんで

くれたかな…？

はい

はい





夜道を歩いていると  
鈴虫達の鳴き声が  
聞こえてきた

あれ？カエルさん達  
静かだね

夜も遅いし  
寝ちやったかな？

素敵な月夜  
なんだけどな

私はこの後  
どうしよう…

おわり

## あとがき

ご購入、ご閲覧ありがとうございます。  
(\*▽\*)お久しぶりです。はじめましての人ははじめまして。  
今回も少女が一人で裸になって楽しむ露出遊びな  
少女シリーズをお送り出来ました。

今作はお留守番中に普段では出来ない遊びに興ずるという  
一度は誰もが通る道(?)という感じで構想執筆いたしました。  
以前 冬の少女とお留守番という同種のものを描いていますが  
今回はその夏バージョンといえますね。やはりお留守番中に  
好き放題するというのは良いものだと思うのですはい(強引  
今作は夏の物語なので元気にお外で遊んでもらいました！  
プレイ自体は割と大人しめで取っつきやすい感じと  
なっております(当社比)自然溢れる田舎の少女が奏でる  
全裸遊びは世界との触れ合いなのであります(飛躍する思想

さあ君も世界と触れ合おう！

それではまたね(´・ω・`)シ 令和7年 7月23日

発行・著作権者

ろれる

HP <http://roreru.sakura.ne.jp>

EM [roreru@roreru.sakura.ne.jp](mailto:roreru@roreru.sakura.ne.jp)

pixiv 3728017

twitter @roreroreya

DO NOT REPOST !

無断複製及び再配布、無断翻訳再配布を  
禁止します。

Fanbox <https://roreroreya.fanbox.cc/>

Fantia <https://fantia.jp/fanclubs/6278>

Ci-en <https://ci-en.dlsite.com/creator/539>

